

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690800089
法人名	株式会社 天正富山
事業所名	イエローガーデン庄川
所在地	富山県砺波市庄川町五ヶ53番地
自己評価作成日	令和3年5月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和3年5月24日	評価結果市町村受理日	令和3年6月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念「尊厳を守る」「感謝」「楽笑」を大切に日々のケアに努めています。ご利用者が自分の時間を大切にしながら、やりたいことができ、スタッフがいつも利用者目線で関わることができるホームを目指しています。職員は常に利用者優先で業務を行うよう努め、安全、安心して生活していただけるよう努めています。季節の行事を大切に、四季を感じながら穏やかに生活していただけるようなホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

理念が共有されており、利用者を尊重する言葉遣いを行うこと、利用者や他職員への感謝の気持ちを伝え合うこと、また、利用者の楽しみとなる取り組みや企画に自由に挑戦できる風土がある。法人全体で組織的に研修が行われている点や、同法人運営の他事業所と相談し合える体制があり、なかでも訪問看護事業所とこまめに連携できる点は事業所の強みとなっている。協力医療機関、市や関係機関とも連携が図られており、適切な医療が受けられるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「尊厳」「感謝」「楽笑」。利用者さまとの関係のみならず、職員間での心掛け、確認事項としている。職員の目につく所に掲示している。全体会議時に唱和することとしている。	理念は事務所やトイレ等、目につく所に掲示しており、月1回の全体会議で唱和し共有している。利用者の尊厳をまもるために言葉遣いに留意したり、職員や利用者への感謝の気持ちを「ありがとうカード」で伝えたりしている。また、季節を感じてもらうための行事の実践等に理念が反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方から野菜、果物、花等の差し入れがある(季節感を頂いている)。前年度からコロナウイルス予防の為、外出等の関わりはできていない。	地域の方が世話をしている花壇を見に行く、野菜や花をもらう等のつきあいがある。現在はコロナ禍で中止となっているが、獅子舞や納涼祭等の町内行事や近隣中学校からの職場体験の受入れ、事業所では月1回法話会を行う等、定期的に地域と交流する機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の活用。 自治会長、民生委員、派出所職員、地域包括支援センター職員、ご家族様等の参加を頂いている。 前年度から、コロナウイルス予防の為、紙ベースでの情報を提供し、共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回奇数月に開催している。 ホーム状況の報告をして、皆様からの意見・質問等を受け、全体会議で職員に伝え共有している。	2か月に1回、運営推進会議を開催しており、利用者の転倒や誤薬事故等、事業所の状況を報告している。報告事項に対する委員からの質問に対し、職員体制等の説明を行い理解を得ている。地域包括支援センターからは他事業所の感染症対策の情報を確認し参考にしてている。また、議事録は全家族に周知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの空き情報報告等を行い、他事業所等の情報確認をしている。4月に第1回目のサービス事業所連絡会が開催され参加した。	利用者のために訪問歯科の派遣やワクチン接種を要請したり、毎月、事業所の空き状況を報告し、利用希望者の相談を受けたりする等の連携を図っている。また、地域包括支援センターから案内される研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行っている。職員は、基本的なことは理解している。センサーマット、L字柵等使用時はご家族様に説明し、同意書を書いている。1~3ヶ月で評価している。玄関の施錠は早朝、夜間帯を除き開錠するよう努めている(センサーは作動している)。	管理者やフロアリーダーが中心となって2か月に1回、委員会を開催し、身体拘束事例の評価や対応の検討等を行っている。また、年に1回は身体拘束に関する研修を行っている。研修に参加できない職員には、研修資料を配布し、全体会議で周知して理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社としての研修があり参加した。 入居者様の身体状態を職員が把握、記録し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援、コンプライアンス等は利用者個々の対応はできている。研修の機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は一つひとつの項目を説明し、理解して頂いたことを確認している。介護保険改正時にも説明し、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時等に、意見・要望を聞いている。プラン説明時、ホームへのご家族の思いを聞いている。要望内容は職員に伝え、思いを共有している。	利用者からの「パンが食べたい」との要望に食事内容を変更した。コロナ禍で外出は自粛しているが「外出したい」との要望に、散歩をする機会を作ったり、県外に住む家族からの面会の要望には、感染予防を講じて、ガラス越しに面会してもらったりと利用者、家族の要望に応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議で提案や要望を聞き検討している。個人対応とし、面談を行いストレスの改善等の機会を設けている。	夜勤職員の業務状況や意見から、よりゆとりを持って申し送りができるよう、勤務時間の見直しを図られた。また、定期的に管理者や会社役員と面談する機会があり、職員の意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や仕事量に応じた就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回自己評価を実施している。管理者評価とすり合わせをし、個々のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市開催のサービス事業所連絡会への参加。空き情報の共有。月1回、管理者会議で他拠点との情報交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に家族様から自宅での生活の様子を収集している。 入居前に利用していたサービスがあれば、事業所からも情報をいただいている。 ご本人様から要望等を会話の中から聞き、プランに組み込んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の打ち合わせ時、ご家族様の要望等を聞き、アセスメント作成しプランに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅での生活で介護が困難になった理由等を見極め、ホームで出来る事を伝え、ご家族様の介護軽減に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様はお客様であり、ホームでは共に生活している仲間でもある。職員も同様の認識で関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の変化、気づき、良し悪しに関わらず、ご家族様に報告・相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時期柄、こちらから出向くことは出来難い。ご家族様との面会も制限している。	コロナ禍前は、家族と外出する機会や家族に散髪してもらう機会、また、馴染みのある近所の公園に出向く機会を設けていた。現在は面会や外出を制限しているが、近隣を散歩したり、車から降りずにドライブしたりと少しでも外出する機会をつくっている。	家族等との面会頻度が少なくなっている状況の中、馴染みの関係が途切れないよう、互いの状況が確認できるような対応の工夫を図られることに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を見極め、トラブルの無いようにテーブル席を決めたり、創作時間、食事時間等で対応を変えたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相手方からの打診相談があれば支援するよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と会話を通して思いを傾聴している。職員と連携し「思い」の把握に努めている。ご家族様にも話を聞き、意見を聞いている。	利用者の思いは「私の姿と気持ちシート」にまとめ、職員間で共有している。意思表示が困難な利用者には、言葉掛けや好きな歌を歌った際の反応から、本人本位に検討し支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人から聞き取りをしている。 ご家族様や在宅時のケアマネジャーから話を聞く、資料をいただく等して、情報の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人から聞き取りをしている。ご家族様や在宅時のケアマネジャーから話を聞く、資料をいただく等して、情報の把握をしている。日常関わっている職員からの情報をもとに把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時は、大まかな計画を立て関わっている。ご本人、ご家族様に要望等を聞き、職員間でのモニタリングをもとに、担当者会議を開き、現状に即したサービス計画を作成している。特に変わりがなければ、6ヶ月ごとにモニタリング、カンファレンス、サービス計画書の見直しを行っている。	介護計画更新の際に家族の思いを確認している。また、モニタリングは介護職員に担当してもらっている。可能な利用者には担当者会議に参加してもらい、定期的に介護計画の検討を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の介護記録を記入している。業務日誌、申し送り事項等から情報の共有をしている。介護計画作成により、職員が同一の支援ができるよう見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様との連携を密にとっている。身体的異常時は、担当医、訪問看護師等との連携をとり、相談、助言をいただいている。ご家族様の都合により、職員が受診に付き添うこともある。歯科往診の依頼も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス予防のため、外出、地域行事への参加支援はできていない。ご家族様との面会も、時間制限や窓越しの事もある。電話で面会をしていただくこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族様の希望する医師をかかりつけ医としている。受診、往診時には「日常の身体状況」を記録し情報提供している。訪問看護との連携も密にしている。 緊急時は事前に希望している病院に搬送していただけるようにしている。	基本的にかかりつけ医の受診には家族に付き添いを依頼している。付き添いが難しい家族には、職員が対応したり、往診可能な協力医療機関を紹介したりしている。また、受診や往診の際は、事前に利用者の様子を書面で伝え、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師の訪問がある。本人の状態を書面で事前に報告している。日常の対応の仕方等のアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様、医療連携室、病棟等との連携を取り、情報の共有を行っている。入退院時には、介護・看護サマリー等で情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には「看取り対応への指針」を、ご家族様に説明をしている。医師・看護師とも相談しながら本人様・ご家族様が希望する終末期を迎えることができるよう関わりたい(見取り事例はない)。	事業所の看取りの指針は利用契約の際に家族に説明している。利用者の状態変化に応じて、適切な医療機関や入所施設の情報提供を行うこととしている。また、管理者は定期的に看取りの研修に参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていない。個人の身体状況に応じた関わり方は、確認できている。救急搬送時に必要な書類は個別作成してある(職員認知)。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。職員の見つけやすい場所に防災マップを掲示して避難場所を把握できるように工夫している。	年に2回、日中、夜間の火災を想定した避難訓練を行っている。事業所では、非常食やカセットコンロを備蓄している。また、有事の際に使用できるよう、会社の本部には自家発電機を備えている。	水害ハザードマップに示されている浸水区域に立地しているため、火災以外の災害も想定した避難訓練の実施や、地域との協力体制の構築を図る等の防災計画を整備されることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人生の先輩である」と意識し、声掛けするよう日常的に行っている。個々に、プライドを傷つけないよう言葉使いに気配りしている。富山弁での会話を楽しむことも良しとしている。職員の意識確認のアンケートを行った。	年に1回、言葉遣いに関する研修を行ったり、日常で不適切な言葉遣いになった際には助言したりする等、利用者を尊重する対応に努めている。また、職員にはプライバシー確保に関する対応についてのアンケート調査を行い、対応に留意する意識付けの機会をつくっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶タイム時に、飲みたいものを聞き、要望に応えるようにしている。入浴時、更衣時に着たい洋服(好きな)を選ぶことを一緒に行っている。余暇時間にしたいことは何かを本人に聞き、提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時期柄外出は、思うように出来ない。個々に声掛けを行いながら、過ごし方を確認している。自席でウトウトしていたら、ベッドで横になっていただく(業務が主になることもある)。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時、職員と話をしながら好みの洋服選びをして、着用していただいている。頭髪は、月1回の訪問床屋を活用している(施設カットには、なっている)。洗顔、ブラッシング等は日々職員の声掛けで行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が考えている。下ごしらえ(野菜の皮むき等)には関わっていただいている。旬の野菜、山菜等は、調理法を聞いて参考にしている。チラシを見ながら、食べたいものや調理法を聞いている。食後は、下膳・食器拭き・テーブル拭き等声掛け確認し、お願いしている。	利用者には野菜の皮むきや味見、茶碗ふき等の役割を担ってもらっている。また、定期的に季節を感じる弁当づくりやケーキ等のおやつづくりを行っている。利用者と食材の買い物に行っていたが、コロナ禍となり自粛している。利用者の楽しみの機会となるよう、事業所内で駄菓子販売を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を中心に魚・肉等を取り入れ調理している。コメは七分つき精米をしている。個々に、ご飯の量を計り、副食を完食していただくようにしている。身体状況により、形態を変えている。水分補給は1時間に1回は行うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員に声掛け誘導を行っている。状態に応じて付き添い、介助を行っている。砺波市保健センターと連携し、状態により歯科往診をお願いすることがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の身体状況により、定時声掛け誘導を行う方、自ら行動する方等いる。一連の行為の中で本人のできることは、行ってもらう(ズボン下げ・拭く・布パンツ対応等)。布パンツ使用者は3名いる。	利用者の1日の排泄状況はチェック表に記録して職員間で共有しており、排泄間隔に応じて、必要な利用者にはトイレを促す等の支援を行っている。入院に伴い日常生活動作が低下していた利用者が、失禁が改善され紙パンツを使用しなくてもよくなった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を1時間に1回は行うようにしている。七分つきコメを使用している。乳酸菌飲料、牛乳、バナナ等を提供している。医師、訪問看護師の助言で下剤服用でコントロールしている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を予定している。声掛けに希望しないときは、時間を変えたり後日にしたり等の対応を取っている。日常は入浴剤を使用しているが、庄川特産ゆずが採れる時期には「ゆず風呂」を楽しんでもらう。	基本的には週2回、月曜から土曜の午後に入浴してもらっている。利用者の要望があれば、その日の職員体制により、週3回入浴してもらうこともある。利用者の気分が向かないときは、職員との相性や時間を空けて確認するなど柔軟に対応している。また、入浴剤やゆずを浮かべる等楽しむことができる機会をつくっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時、無理な入室をさせることなく、ホールで自由に過ごしてもらっている。自由に動けない方、車いす全介助の方等、座りっぱなしの方が多いため、昼食前後に30分ほどでも自室で横になっていただくよう声掛け促し介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況はユニットごとに確認できるように置いてある。服薬内容の変化等は、業務日誌記入・口頭伝達等で共有している。誤薬を防ぐため、服薬介助時は2人体制でダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のやりたいこと、できることを確認しながら洗濯物たたみ、調理の下ごしらえ、ぬり絵、歌等参加していただけるよう促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時期柄、集団での行動がとれない。天候を見ながら、ホームの周りを散歩している。	定期的に近隣施設のカフェを利用したり、春には庄川水記念公園に桜を見に行ったりと外出していた。コロナ禍になり、外出は自粛しているが、人が少ない公園や車から降りずにドライブする、近所を散歩する等の機会をつくっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様から「預かり金」と称して、日常的使用金を預かっている。本人が買い物に出かけることはできていない。「館内スーパー」を開き、欲しいものを選んでもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話使用は、家族と時間を決めておき、職員が介助に入り実施している。暑中見舞い・年賀状は家族宛に介助の元、出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはエアコンの設置があり、年間を通してコントロールしている。 冬期間は、加湿に注意をしている。	車いすの利用者も安全に移動できるスペースや動線を確保して、家具等を配置するようにしている。また、全利用者がテレビが見えるよう椅子の配置を工夫している。利用者一人ひとりが望む場所でも過ごしてもらうよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の気の合う方同士に同じテーブルに着いていただき、談笑できるようにしている。 状況により、席替えをして、気分転換を図っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッド、タンス、エアコンが設置してある。 自宅での生活で愛用していたタンス、テーブル、布団や小物を持参している。	ベッド、タンス、エアコン以外のものは、自宅で愛用していたもの等を持ちこんでもらっている。見やすい高さに時計を設置したり、転倒を防ぐためにマットを敷いたり利用者一人ひとりに合わせた工夫が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋には、名札を付けている。 不安な方には、大きめの貼り紙をしている。トイレ等も矢印等で示している。		

2 目標達成計画

事業所名 イエローガーデン庄川

作成日：令和3年6月30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	コロナ禍で面会制限が厳しくなることで、馴染みの関係を途切れさせないための外部への情報発信が不足している。	家族への定期的な情報発信を継続し、面会以外での外部との交流手段を積極的に活用できる体制を整える。	写真や手紙を使った利用者家族への日常報告を不定期ではなく定期的に行う(2ヶ月毎)。リモートでの面会手順を家族にも理解しやすい形式でまとめて配布する。	3ヶ月
2	35	水害時等の火災以外での避難訓練の実施が不足している。 職員一人ひとりが避難所への避難経路を理解していない。	最寄りの避難所への避難経路の理解を含めた火災以外の避難訓練の実施や、地域との協力体制の構築を図る等の防災計画を整備する。	全体会議等で職員へ施設から避難所までの経路図を配布して理解を深める。 地域住民へ避難訓練の参加をお願いして地域との協力体制を構築する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。